討論メモ

「西洋の侵略を防いだ日本の戦意と外交」

令和 3 年 7 月 20 日

１．7 月は、「明治維新　参勤交代に始まる近代化」を上梓された浅井壮一郎さんに、ご著書の核となる部分について、「西洋の侵略を防いだ日本の戦意と外交」と題して、下記の要旨のプレゼンテーションしていただきました。

西洋文明は万有引力の発見のような自然科学の発展と共に、戦意の重要性と団体原理の発見を倫理という普遍原理と捉え、歴史的大発見と重視し、これにより欧州軍は最強になっっていました。

十九世紀のアジア各国は、その西洋の列強の侵略に晒されていました。プラッシーの戦い、アヘン戦争、アロー号事件などの戦いでは西洋の一方的な勝利で、インド、清を始めとして各国が西洋の支配下に置かれました。

しかし、江戸の初期から近代化が始まっていた日本は、国力も充実、国民の科学、経済などの知見も高く、薩英戦争、下関戦争などでも西洋列強と互角以上の戦いを演じ、また江戸幕府も巧みな外交で欧米列強の進出を拒みました。当時の日本人の勇気溢れる戦意と怯まぬ外交が侵略の危機から日本を救いました。

２．続いて出席者 13 名による意見交換に移り、下記のような意見が出されました。

・浅井さんの視点は、従来の歴史観とは全く違い、大変勉強になった。

・浅井さんは、歴史を縦軸と横軸の両方からとらえられていて大変に参考になる。

・日本史の知識が乏しく、浅井さんの著書は難しかったが、勉強になった。

・幕末からの外交史を知らなかったので、勉強になった。

・GHQ の影響か、自分達の世代は日本史をとる生徒は少なかった。

・日本史、特に近代史をもっと教えるべきだ。

・歴史を教えない学校も悪いが、社会に出てからも自分でもっと勉強すべきだ。

・戦後の検閲で歴史教育は打撃を受けた。

・検閲に協力をした連中が教師になり、日本の歴史をゆがめた。

・曽野綾子が講演した際に聖心女学院の生徒の二割は日米戦争があったことを知らなかったそうだ。

・年を取るにつれ、学生時代にならった丸山真男や坂本義和とは違う考え方になってくる。

・現代の日本人は平和志向ばかりで、戦争を直視しない。平和を維持するには、幕末を見習って勇気ある戦意を取り戻す必要がある。

・欧州と比し、日本の江戸時代が優位に立っていた点も多いことに気付かされた。

・福沢諭吉は「東洋に不足しているものは数理学と独立心」といったが、江戸時代にはすでに両方ともあった。

・江戸時代は各藩が分立し、権力が分散されていたが、それが各藩の工夫や競いにつながる良い面もあったのではないか。

・十八世紀初頭に幕府勘定奉行として活躍した荻原重秀の“政府の信用で貨幣を発行する”という発想は素晴らしい。リンカーンよりも 150 年も早い進んだ考え方だ。

・幕末に暗躍したグラバーはアヘン商人だが、日本の社会がしっかりしていてアヘンの売り込みができないので、薩長への武器販売に精を出した。

・英国は薩英戦争などを通じて日本の手強さを知った。その後は、薩長の若者を留学生として受け入れたりしながら、日本をロシアへの防波堤にすることを、早くも、考え始めていた。

・英露対決のグレートゲームの結末が日露戦争だった。

以上